

函館高専 追加概要説明書

第1章 教育理念・目標について

1、教育目標について

教育目標は技術者として必要な内容を網羅しておりますので、すべての学生が達成して卒業していくべきものと考えています。特に、JABEE 基準では掲げられたすべての学習・教育目標を達成した学生のみを修了させることと定められています。ただし、すべての目標をかなり高い水準で達成させることは至難の業でありますので、具体的な達成水準の設定が重要かと考えます。

JABEE プログラムにおける学習・教育目標 A-1～F-3 の達成度評価は、達成度評価表によって確認しますが、各目標に対応付けられたいくつかの科目の修得や研究発表、論文作成、インターンシップの評価、PBL 実験における評価、学会発表、TOEIC スコアなどを組み合わせて行います。JABEE プログラム修了は、A-1～F-3 すべてを満足することが要件となっています。

これらの水準は決して高いものではなく、すべての学生が努力すれば十分手が届くレベルに設定しています。したがって、学生によって得意、不得意な達成目標はあるのは確かかと思いますが、学校側で設定した最低限の水準ですべての目標を達成したうえで、さらに各自の得意の能力に応じて特定の目標を高い水準でクリアしていくことが重要かと考えています。

本科卒業生につきましても、JABEE プログラム修了（すなわち専攻科修了）と比較しますと、達成水準は幾分低いものの、すべての目標が網羅された科目を履修しますし、PBL、インターンシップ、など、エンジニアデザイン教育も行われておりますので、すべての目標を達成して卒業することになると考えています。

2、技術者教育について

高専は本来、本科5年＋専攻科2年の体制で技術者教育を行っており、基本的にJABEE プログラムを中心に考えているわけではありません。本科5年間では、一貫して基礎知識から各専門分野の専門知識、技術を学習する体制がとられています。また、専攻科では各専門分野の基礎知識をベースにして、その専門分野をさらに深く学ぶとともに、異分野の知識や技術の習得もめざしています。

JABEE プログラムは本科4、5年と専攻科を切り取った教育システムに見えますが、実は JABEE を利用して学校全体の教育システムの質を向上させていこうという意味において、本科、専攻科を一貫しています。

たとえば、JABEE で重要視されている PBL によるエンジニアリングデザイン教育については本科1、2学年からすでに導入しておりますし、インターンシップ、技術者倫理教育も本科3～5年で導入されています。すなわち、本科5年間だけでも専門分野の技術者教育としては十分教育目標を達成することになり、5年間で完結する一環教育から外れ

るものではありません。また、専攻科でもインターンシップ、PBLによるエンジニアリングデザイン教育、技術者倫理教育を実施していますが、これは本科低学年からのスパイラルアップ教育としてとらえることができ、その点から見ても、本科に比較してより高い水準で教育目標を達成させるのが専攻科教育であるといえます。

しかしながら、JABEEプログラムにおける学習・教育目標の水準は具体的に設定されておりますが、一方、本科卒業については教育目標は掲げられているものの、まだ具体的な水準は明確に設定されていません。JABEEを前面に押し出しすぎると、本科卒業の位置付が明確さを欠き、本科で修了する学生が明確な目標を見出せなくなるのは確かです。これについては今後十分検討し、本科卒業生も明確な達成感を持って社会に出ていけるような体制にしていきたいと考えています。

第3章 専攻科の教育活動について

最新技術を教えることについて

本校の中期目標における専攻科教育の項目にも「特別研究については、地元企業との共同研究などを通じて、現実の問題を解決するための技術や手法を習得できる技術開発型の教育を実施する。」ことを挙げています。

本校の研究推進・地域連携委員会と協力して、地域との連携を深め、民間との共同研究が可能な特別研究のテーマを収集、実践するシステムを作ってゆきたいと考えています。

第5章 学生支援について

1、学生相談室の外部専門家について

本校では、すでに外部から2名の専門家（精神科医・臨床心理士）に協力いただいております。現在のところではこれが十分機能していると考えています。

2、オフィスアワーについて

本校では、全教員が毎週水曜日16時25分～17時10分の同一時間帯にオフィスアワーを設定しており、学生には時間割に載せて周知しています。

第6章 施設・設備について

学生寮について

学生寮の全面改修については、現在、概算要求を行っているところです。予算化された暁には、施設・設備を可能な限り現代のかつ快適なものに更新する予定でいます。その際、男子についても4年生以上の高学年寮生については個室化を

図り、今はB棟の通路を利用して実施している一年生の一斉学習も、全員収容が可能な大研修室の設置を実現したいと考えています。

家庭の教育力が低下し、なおかつ、少子化で集団生活の経験が乏しい現代の学生の特徴を考慮した上で、低学年寮生には一室複数人の居住による団体生活を学ばせるための集団教育、高学年寮生には個を尊重した自主性涵養の教育が有効ではないかと考えています。

第8章 管理運営について

1、委員会について

平成15年度に委員会を見直し、28あった委員会を14に縮小しました。その主な内容は、委員会は学校運営にかかる重要なことを決定することとし、その下に部会を設置することで、より詳細な事項を審議することとしました。今後は、学校運営がさらに効率的に行われるよう、必要に応じて委員会の見直しを随時ほかることとしています。

2、事務組織について

本校では、事務の効率化をめざし平成18年度から事務組織を再編し、庶務課と会計課を総務課とすることとしています。

また、法人化に伴い全国55高専が1つの機構となり、機構本部に業務を一元化した方が業務の効率化が推進されるようなものは改善するよう、機構本部の企画委員会の下に業務改善委員会を設置し、現在検討を行っているところです。

なお、機構本部には専門職として、知的財産担当職員や監事が在職し、各学校運営の指導が行われています。